

まちの声



今回の「まちの声」は、J A 北いぶき青年部部长神藤武志さんにお話を伺いました。



Q どんな妹背牛町にできたらと思いますか？

A 住んで良かったと思われる町になつてほしいと思います。我々青年部も、その一助となれるよう町に住む若い世代と協力し、スノーフェスタや豊年祈願焼肉祭りを実施しています。また、妹背牛町を広くPRするため、J A、コープさっぽろと協力し妹背牛産米の販売促進活動もさせて頂いています。

Q 議会だよりを読んでいますか？

A 自宅に「議会だより」が届いたとき、毎回目を通しています。青年部長という立場になり、今まで以上に細かく読ませてもらったことと思います。



Q 「議会だより」をどのようにしたら読んで頂けると思っていますか？

A 地域住民の声が、どのように行政に届いているのかがわかれば今まで以上に、町民の皆さんに深く興味を持って頂けると思っています。

☆千ヨットつがやさます☆

この町が、若い世代に住みやすい政策を考えて頂ければと思います。例えば、結婚して町場に移住しようとするとき、町営住宅・中古住宅など、なかなか自分の条件に合ったものが見つけないと耳にします。若い世代向けの住居のあっせんや、新築促進に関わるような政策を実施していただけたらと思います。

◎6月定例会のお知らせ◎

会 期 6月17日～18日
一般質問 6月17日
9時開会予定です
場 所 役場3F 議場

編集後記

大地がみどり一面まぶしく輝く季節になりました。昨年来のコロナウイルス感染拡大の波を幾度と繰り返し、世界が混乱しながら動いています。そんな中、ワクチンという光明を見出し、今この脅威から抜け出そうとしております。本町においても一日も早く全町民がワクチン接種できるよう、準備が進められているところです。

さて、本年度予算が議会で可決され、新年度がスタートしました。4月から観光の起爆剤として、新しい形のコーディネート「ムービングハウス」が新設されました。コロナ禍ではありますが、たくさんの方の利用を期待しているところです。国も様々な対応策に追われていますが、すべてを救済することは難しく思います。私たち一人一人が感染対策にしっかりと取り組むことが、終息に向けての近道だと信じております。



広報特別委員会

- 委員長 佐々木和夫
- 副委員長 田中 春夫
- 委員 渡辺 倫代